

乳児期の顔症状に漢方入浴を行った小児アトピーの経過 (1 歳児)

症例 ID：001-01-FG | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

生後 4 か月頃、顔のアトピー症状で複数の小児科や皮膚科を受診しました。3 か月終わり頃から頬を掻きむしるようになり、肌は赤くただれていきました。

初診の小児科では強いステロイド外用薬が処方され、その後も複数の医療機関でステロイド外用薬が処方されました。最も良心的と感じた皮膚科でも弱いステロイドが出ましたが、効果は限定的でした。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	複数の小児科・皮膚科でステロイド外用薬が処方され、使用歴があります。
製品名	不明。
強度	大人でも強めとされる薬剤、および弱いステロイドの処方歴があります。具体的分類は不明です。
使用期間	数週間程度の使用歴があります。
中止時期	松本医院での治療開始後に中止。
来院前／後	来院前に使用歴があります。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 3 か月終わり頃	来院前	頬を掻きむしるようになり、赤くただれました。
来院前	複数院受診	小児科や皮膚科を回りましたが、ステロイド外用薬を中心とした方針でした。
松本医院受診後	治療開始	煎じた漢方薬を使った入浴を 1 日 2 回始めました。
治療初期	リバウンド期	顔中が血だらけになり、衣類も薬と血で汚れる時期が何週間か続きました。
4 月頃	経過中	保育園開始で 1 日 2 回の入浴が難しくなった頃から、手足のひび割れ症状が緩和し、顔にコットンでつける程度でよい状態になりました。
5～6 月頃	経過後半	漢方薬をつけることを嫌がるようになり、夏頃には保育園の人が驚くほど皮膚状態が落ち着きました。
季節の変わり目	その後	顔が少し赤くなることはありましたが、以前のように掻きむしることはなく、症状が出たら漢方薬をつける対応を続けました。

4. ピーク時期

症状が強かった時期は、漢方入浴開始直後に顔中が血だらけになり、ベビー服が薬と血で汚れる状態が何週間か続いた時期です。

5. 困りごと

- ・乳児の掻きむしりを止めようとして、保護者の目と手が離せない状態でした。
- ・1日2回の漢方入浴を保育園生活と両立することが難しくなりました。
- ・保育園での投薬対応には医師の診断書が必要であり、外用や管理の方法に不安がありました。

6. 経過のまとめ

漢方入浴開始直後は顔中が血だらけになる強い時期がありましたが、4月頃から手足のひび割れが緩和し、夏頃には保育園でも驚かれるほど皮膚状態が落ち着きました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。